

日本サーモエナー

(東京都港区、泉雅彦  
社長、03・6408  
・8251)は、30年

にわたり「ハイブリッ  
ド給湯システム」を展  
開している。ボイラ  
(温水器)とヒートポ  
ンプ(HP)給湯機を  
組み合わせた高効率な  
システムで、工場や病  
院、介護施設などで成  
果を上げている。

給湯量のベース部分  
をエネ消費効率の高い  
HP給湯機が行い、給  
湯量が増える際は一時  
的に不足する熱を瞬間  
的に加熱できる高効率  
なボイラでまかなう仕  
組み。導入したホテル  
では更新前に比べガス

## 日本サーモエナー

の使用量を削減し、燃  
料費を約20%低減し  
た。また、ボイラだけ  
の使用に比べて二酸化炭  
素(CO<sub>2</sub>)排出量を  
削減できる。導入した  
飲料工場ではCO<sub>2</sub>排  
出量を年30%低減でき

## モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦

(第二部)  
3

# 導入ホテル 燃料費20%減

## ボイラとHP給湯機連携



た。HP給湯機でボイ  
ラ室の温度が低下し、  
作業環境の改善にもつ  
ながったという。

同社は1961年に  
タクマの子会社として  
設立。蒸気ボイラと温  
水ボイラの設計・製造  
など、化石燃料を利用  
した設備を中心に手が  
けてきた。環境問題へ  
の対応を進めようとバ

イオ燃料や太陽光発電  
などを展開する中でH  
Pとの連携を生み出し  
た。現在の脱炭素化の  
流れに期待も大きい。

同システムはP給湯機とボイラの  
連携に合った設備を  
提供できる点だ。最大  
使用量に合わせてHP  
を設置すると、過大設  
備に陥りやすい。そこ  
で得意とするボイラの

導入に当たってはH  
P給湯機とボイラのバ  
ランスを取るため、既  
存設備や設置場所の仕  
様に合わせて設計する  
場合が多い。「現在は  
コロナ禍で思うように  
客先に行けないが、例  
年は年間営業活動の3

コスト削減のため光熱  
費を低減しようとHP  
給湯機の導入を検討す  
る事業所を調査し、  
「最適な設備を提案す  
ると、設置スペースが  
半減することもある」  
(同)という。

「倉敷田加温泉ホテル  
山桃花」に導入し、設  
備更新前比で燃料費を  
約20%低減した

ボイラは熱交換をし  
やすい銅管を使うこと  
が多いが、腐食しやす  
い課題がある。そこで  
同社は水質を保つため  
にタンクや熱交換ユニ  
ットなどでステンレス  
管を導入。ホテルでは  
HP給湯機を1日10  
(月・木曜日に掲載)

【事業所概要】▽沿革 61年、田熊クレ  
イトンサービスとして設立。05年、荏原  
ボイラと合併し現在の社名に改めた。▽所  
在地 東京都港区白金台3の2の10▽資本  
金 4億9140万円▽従業員 450人  
▽事業内容 各種ボイラおよび設備機器の  
製造からメンテナンス